おかげさまで日之影新聞 第6号

神楽は終わらない。

神が棲むまちの神楽を見に行こう

日之影のまちには神楽が息づいている。約四千人が暮らすこの小さなまちのなかには、実に27もの集落の神楽保存会がある（うち8つは現在休止中）という。その事実は「集落」という共同体がもつ人の繋がりの強さや、集落に生きる人たちが祈りと感謝を捧げる対象となる神さまが、このまちの日常に当たり前のように存在しつづけていることを印象づける。

「日之影神楽」というのはこのまちで継承されている神楽の総称だ。そのうちのひとつが「大人（おおひと）神楽」であり、岩井川系と呼ばれる流派に属するもので、現在ではこのまちで唯一の夜神楽となっている。

夜神楽。そう、その名の通り夜を徹して行われるその祭りには、どこか秘儀めいたような、謎めいたような、そんな響きが漂う。見てみたい。急峻な山々が連なり深い森に覆われ、本来であれば恐ろしいほどの静寂に包まれるはずのこの小さなまちの夜の片隅で、人びとが夜な夜な集い、眠ることもなく、灯りを落とすこともなく、朝を迎えてなお終わることがないというその祭事を。

さあ、行こう、日之影へ。夜神楽が、幕をあける。

神楽当日の朝、会場である「歌舞伎の館」には舞のおさらいをする親子の姿があった。

これから始まる長い長い祭りのための食事の準備。猪肉を切っていた。

寒空の下の小屋では女性陣が大きな鍋で煮しめを作っていた。

神々の面々。当日この祭壇に並べられるまで、誰にも触れられることなく保管されている。

彫りもので囲まれた舞いのステージは御神屋（みこうや）と呼ばれる。その奥に祭壇がある。神楽前の祈祷。

太鼓と笛を鳴らしながら集落の鎮守である岩井川神社へ。

岩井川神社の境内にて。陽は明るいが真冬の寒空。これからここで昼の神楽が始まるのだ。

凍てつくような寒さの中、装束を纏った子どもたちが神楽を舞う。

境内脇で火を焚いて体を温める男たち。串に刺した鶏肉や猪肉を焼いて胃袋も温めていた。

岩井川神社の氏神様の登場。

「舞入れ」と呼ばれる儀式。集落の氏神の社（神社）から、氏神様を神楽宿までお連れするのだ。

長い階段のある神社の中腹のあたり、鳥居の周りを何度も何度もぐるぐると回り続ける。

神楽宿である「歌舞伎の館」に到着し、ここでもまたぐるぐると回り続ける。

いよいよ夜神楽が近い。子どもたちも衣装をバッチリきめて。

19 時。夜神楽の幕があがった。28 の演目の神楽が行われる。終わりの見えない舞と楽と歌のはじまり。

縄を引っ張ると、ステージに紙吹雪が舞い散る仕掛けなのだ。

リズムよく鳴る太鼓の音がまるで興奮を呼び覚ますかのように響く。

神楽の演目によって登場する神様が違う。荒々しく躍動する神様の登場には観客も歓喜する。

必死の舞の後の舞台裏。

夜も更ける頃には観客もまばらになり、横にならずにはおれなくなる。もちろんそれでも神楽はつづく。

夜神楽前の晩御飯。

夜が明け、朝を迎え、昼に近づき、神楽はいよいよ終盤へと向かう。観客の数もまた増え、クライマックスに向けて会場の熱気は高まっていった。

来年も百年先も神楽はつづく

夜神楽には熱があった。

奉仕者（ほしゃどん）と呼ばれる舞い手たちの練習と準備は数ヶ月前から途切れずつづいていた。神楽前日からは会場や御神屋の準備に追われ、当日は朝から祈祷とお祓い。さらに凍てつくような真冬の空の下の岩井川神社での神楽、そして舞入れ。日暮れを迎えてようやく太鼓と鐘と笛が鳴り響き夜神楽の舞いがはじまり、あとは延々とつづく。真夜中を過ぎても、朝陽を迎えても、まだ延々と延々とつづく。夜を越え朝を過ぎ昼ちかくまで舞い終わることがないのだからほぼ時間の感覚もわからぬほどグルグルとした熱狂の中にあったことだろう。裏方を支える女性陣たちも、観客たちもまた、熱の中にいた。

神の舞に歓喜する者、カメラのファインダーを覗きシャッターを押し続ける者、横たわりそっと眠りにつく者。最後の演目の、小さくも神々しい天照大神の登場に心打たれる者。そうしてようやく夜神楽が終わりを告げても、胸のうちではもう太鼓や鐘の音がずっと鳴り止むことなく響いているような感覚が残った。夜神楽の風景の中の、踊る子どもたちの姿。若者が頼もしく舞い続ける姿。そんな後継者たちを見つめるベテランたちの眼差しと矜持。強い印象を残したかれらが先人たちから受け継いできたこの夜神楽は、この小さなまちの夜に発光した生命の熱のかたまりのようだった。

日之影の夜神楽が終わった。それは、どこまでも途切れることのない次の夜神楽のはじまりであることを予感させて。

神がステージから観客席へ駆け出し、観客席の赤ん坊を高々と抱き上げた。

ひとつひとつの神楽の演目にそれぞれの神様の物語があり、その舞のひとつひとつが先人たちから受け継がれて来た。

進学でまちを離れて、卒業後まちに戻った。子どもの頃から見てきた神楽を愛する青年。

最後の演目となる「舞開」は天照大神お出ましの舞。その大役を担う少女。舞い手で唯一の女性だ。

使える かなこの日之影方言教室

「雪降る日之影の冬」

講師：日之影町役場 甲斐 賀奈子

ま～。今年ん冬は、芯からさみかったわ～。家ん中でん、暖房たいてん、なかなか温もらんかったがね。全国的にさみかったっちゃろうけんどんね。日之影町に雪が積むこた～めずらしとよ。年に1度か2度、薄っすらと車やら屋根やら庭先に積むこたあってん、道に積むこた～、あまたね～とよ。じゃき、てげな人は、車のタイヤもノーマルよ。スタットレスに履き替えるもんの方が、少ね～わねどかい。じゃけんどん、今年は何べんも、道まで積んだもんね。

朝、おずむと、何とも言えんシ～ンとした気配で、雪が積んじょるとが分かるとよ。それからの時間がせわしとよ。仕事に行くとに、ちっとでん早よ出らにゃいかんきね。車じゃね～と、てにゃわんし、じわんじわん行かんと、危ねつよ。急ブレーキどん掛けたらぼくよ。滑ってあぶね～きね。うっ止まりどんしたらぼくよ。スリップして、動かんごつなるきね。アクセルを踏んだり、ゆるめたりしながら、じわ～と、じわ～と進むとよ。うちへんでん、ちったおじかったき、慣れちょらんもんは、たいがいおじかったはずよ～。

でん、も～世話ね～よ。なごせず春が来るき。

〈訳〉

今年の冬は、すごく寒かったですね。家の中でも、暖房をつけても、なかなか温まらなかったです。全国的に寒かったのですけれど。日之影町に雪が積もる事はめずらしいのですよ。

年に1回か2回、薄っすらと車や屋根や庭先に積もる事があっても、道にはあまり積もらないのですよ。ですので、大体の方は、車のタイヤはノーマルタイヤです。スタットレスタイヤに変える方の方が、少ないと思います。ですが、今年は何回も道に雪が積もりました。

朝起きると、何とも言えない静かな気配で、雪が積もっているのが分かるのですよ。分かってからの時間が忙しいのです。仕事に少しでも早く出なくては。車で行くしか手段はなく、ゆっくり行かないと危ないので、急ブレーキは禁物です。滑って危ないです。途中で止まっても駄目です。スリップする恐れがあります。アクセルを踏んだり離したりして、ゆっくり進みます。私たちでも怖かったので、慣れていない方は、すごく怖かったはずです。

でも、もう大丈夫でしょう。もうすぐ、春が来ます。

活動報告 ヒノカフェ

気になっていた、元「ミートショップ」へ潜入！

前号で、ヒノカフェの拠点づくりに向けて、滋賀県にあるコミュニティスペースやカフェなど、みんなが気軽に集まれる場所についてレポートしました。
その取材は、ヒノカフェの活動のために日之影町の中で物件を決めていく参考にするためです。

リアルな「ヒノカフェ」の場所となる候補地を実行委員で話し合ったときに、みんなが前々から気になってた物件がありました。

それは、町役場近くにあり、オレンジ色の外観が目を引く、元「ミートショップ」だった空き店舗です。

実行委員とともに、その物件を内覧すると、広さ、立地、申し分なく、掃除をして少し手を加えればすぐにでも使えそうな状態でした。
すぐにでも、町民が集まってペンキを塗り替えたり、壁紙をはがしたりと、ワークショップを実施してもおもしろそうだなと思える物件。

実際に場所が見えてきて、具体的に活用していくイメージが湧き、「ヒノカフェ」の拠点づくりに向けて一歩進みました。（文・水井 歩／オズマピーアール）

活動報告 地域おこし協力隊が行く！

みなさん、こんにちは♪

日之影町地域おこし協力隊2年目の財津です。寒かった日之影もどこへやら、梅の花が咲き、桜の花も咲きましたね。そんな春の陽気にワクワクしています。

私は、町の買い物支援の活動をしています。

①町内のお店から品物をお預かりして、ふれあい・いきいきサロン会場や自宅などで販売をする移動販売

②注文を受けて私が買い物をし、サロン会場や自宅まで届ける買い物代行です。

衣料品から取扱いを始めた移動販売も、今では惣菜や食料品、日用品などを扱うようになりました。

買い物支援で利用している車の種類は、日之影では珍しいオレンジ色のバンタイプの車です。商品を積み込んでいるのでスピードを出すことができず、のんびりと走っています。

車にはマイクとスピーカーを付けていて、音楽を流しています。サザエさんや魔女の宅急便のメロディが聞こえてきたら、私が近くにいる合図です。

是非、覗きに来てください♪

今月のおかげさま

おかげさまで、就農6年目になります。

今年で、日之影で就農して6年目になります。主に椎茸生産に取り組んでいます。農薬散布の無人ヘリコプター操作も行っています。地元の消防団にも所属し活動しています。
これからもいろいろな事に挑戦していきたいと思っています。

たつや（26さい）

おかげさまで、日之影。

発行：日之影町〒882-0402 宮崎県西臼杵郡日之影町大字岩井川3398番地1／☎0982-87-3900（代表）／企画：株式会社オズマピーアール／編集：菅原良美（雛形編集部）／アートディレクション&写真：小板橋基希（akaoni）／デザイン：難波知子（akaoni）／取材・文：空豆みきお（akaoni）
禁・無断転載／©hinagata. All Rights Reserved.